

4. 南関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる	観光名所（職員）	・4～7月の4か月のうち、3か月で来客数が前年を大幅に上回っている。このペースでいくと、1年間のうち10か月で前年をクリアできるとみている。	
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・ボーナス支給額も増加し、猛暑に後押しされる中、オリンピック需要も予測される。秋の出足が順調に推移すれば、やや良くなる。	
		百貨店（統括）	・婦人服のジャケット、コート、ブーツ、紳士のスーツ、コートに期待できる。	
		スーパー（店長）	・夏から秋にかけて、季節商品の動きは良いと思われる。ただし、果物類は通年とは違う産地の出荷も早く、大量に消費されているので、飲料を含め欠品が発生する恐れがある。	
		スーパー（統括）	・高級品を求める客が着実に増加している。急に大きく回復することはなくても、景気はやや良くなる。	
		コンビニ（経営者）	・厳しい残暑が予測されているが、この暑さが続けば、来客数もこのまま増え続けると思われる。	
		乗用車販売店（販売担当）	・コンパクトカーが依然好調である。今後モデルチェンジ車などが発表になり次第、ユーザーの購入意欲が高まり、販売台数が増加する。	
		乗用車販売店（総務担当）	・9月以降は、新車が発表され、販売量は好転する。	
		住関連専門店（統括）	・今後、新築需要が見込まれ、来客数及び販売数が増加する。	
		スナック（経営者）	・ボーナスが多少増加していることに加え、利益率は悪いが仕事量が増加し、残業も増えているという話を客から聞いているので、今後はやや良くなる。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストラン利用が少し上向いている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・企業の忘新年会の自粛傾向が緩んできている。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・9月に大きなグループを受注しており、手持ちの予約状況は良く、今後に期待できる。	
		旅行代理店（従業員）	・昨年よりも実績は確実によくなっているが、先行販売状況はいまだ不透明である。	
		通信会社（営業担当）	・薄型テレビ購入を契機としたデジタル放送の需要が増加していく。	
		ゴルフ練習場（従業員）	・8～10月にかけて、ゴルフ練習場は多少良くなる。来月に販売イベントキャンペーンがあり、この感触も良い。	
		設計事務所（所長）	・長期間実現化されていない計画物件が、実現すると予想している。	
		住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン控除の優遇が受けられる年内入居に向けて、分譲建て売り住宅の販売が見込める。また、金利上昇と土地価格の上昇を敏感に感じ取っている人が動き始めている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・新聞紙上で、特定の一部上場企業では景気が良くなっていると報道されているが、中小零細企業がその恩恵を受けるには、まだ時間がかかる。
			一般小売店〔CD〕（営業担当）	・客単価は回復する傾向にあるが、来客数の増加に力強さがみられず、今しばらく一進一退の状況が続く。
一般小売店〔衣料・雑貨〕（経営者）	・秋物が立ち上がる9月に涼しい気候が続けば、売上の増加が見込めるが、商店街の厳しさは変わらない。			
一般小売店〔鞆・袋物〕（従業員）	・イベントや季節需要には力強さがあるが、身の回りの商品については前年よりも単価が2割低下している。季節商品、旅行商品が前年比2割増となっているので、7月は良い状況となっているが、先行きは読めない。			
百貨店（企画担当）	・現状では、猛暑関連商品が売れ筋となっているが、正規価格品ではなく、バーゲン品等のやや安い商材に特化している傾向がみられる。今後も同じような傾向が続き、厳しいことに変わりはない。			
百貨店（企画担当）	・天候の影響を受けている盛夏アイテム、水着や浴衣は好調であるが、中元は前年を下回っており、秋以降の消費動向もいま一步伸びないのではないかと推測される。			

百貨店（広報担当）	・現状は景気より天気の後押しされている形だが、秋以降に売上が回復する実感はない。8、9月も残暑が長引くと、逆に秋物販売に影響が出る。10月からの社会保険料率アップなどが家計に与える影響も出てくるだろう。「多少無理をしても買いたい」と思わせるくらい付加価値の高い商品を提案し続けることができるかが鍵である。
百貨店（広報担当）	・秋のファッショントレンドに大きな変化がなく、新商品需要が少ない季節となりそうである。また、季節の入り口の気候によって大きく売上が左右されることが多く、現在のところ、先行きの見通しは立たない。
スーパー（経営者）	・7月が好調なので、今後2、3か月先が今よりも良くなることは考えにくい。現状も、天候の影響で良くなっているが、まだ本格的な景気回復ではない。
スーパー（店長）	・食料品が苦戦している上、主力の婦人服が上向いてこない。秋物も大きなトレンドが見当たらず、衣料品の苦戦は続く。
コンビニ（経営者）	・猛暑のため、ジュースやアイスなどの販売量は増加しているものの、その他の商品の動きはさほど変わらない。目新しい商品の導入がなければ、現状と変わらない。
コンビニ（経営者）	・多少良くなる要素もあるが、近隣に同じチェーンのコンビニが出店する予定であるため、2、3か月はプラス面とマイナス面が相殺されて変わらない。
コンビニ（経営者）	・近隣大型店の出店ラッシュや営業時間の延長も一段落して、客の買い回り先の選別もみえてきたので、当面は落ち着いた動きとなる。
衣料品専門店（経営者）	・夏物が非常に良かったため、秋物も早く動くことが予想され、期待している。
乗用車販売店（営業担当）	・大手自動車メーカーのリコール隠しの影響か、自動車業界全体で少し冷めている感があり、今後も変化はない。
乗用車販売店（渉外担当）	・当社の中古車販売は、4月以降初めて売上台数、売上高、利益ともに予算を上回ったのが明るい材料ではあるが、新車販売、サービス売上トータルで考えた場合、2、3か月先に期待できるところまではいかない。
その他専門店 [キャラクターグッズ]（従業員）	・客単価、来客数ともに低調である。今後についても、明るい兆しもなく、厳しい状況が続く。
その他専門店 [眼鏡]（店員）	・夏物商品は好調に推移し、商品が不足する傾向にあるが、一般商品は昨年と比較して売上、来客数ともに変化はない。買上単価は、昨年より若干低めであり、この傾向は今後も続く。
高級レストラン（支配人）	・良くなったり、悪くなったりと毎月の変動が大きく、今後も変わらない。
一般レストラン（経営者）	・周辺で新築マンションの供給が増加していることに伴い、新住民の来店が増加する。
都市型ホテル（スタッフ）	・相変わらず間際の問い合わせが多く、先が読みづらい状況は変わらない。
タクシー運転手	・タクシー業界では、増車に歯止めがかからず、法人タクシーが増えすぎて、運転手の増収につながらない。
タクシー運転手	・この夏は暑さのためにバスを待ちきれず、タクシーを利用する客で多少は増加しているが、これは一時的な現象で、長く続くとは考えられない。
通信会社（営業担当）	・オリンピックの影響等で、上半期中は現状維持が可能と判断している。
その他レジャー施設 [アミューズメント]（職員）	・今まで好調だったアミューズメント施設の売上が、ここ数か月漸減している。機器の陳腐化、酷暑等の理由はあるが、悪化していく要素も感じられる。ただし、9月上旬には当業界の新製品発表会が控えており、右肩上がりの売上を強固にする良いチャンスである。
その他サービス [学習塾]（経営者）	・生徒数の動きにも変化がないので、2、3か月先も同じだと思われる。
設計事務所（所長）	・建設資材、特に生コンや鉄骨関係の価格が上昇傾向にある。少子高齢化の中で、住宅は供給過剰気味であり、明るい見通しが無い。
住宅販売会社（経営者）	・今の客は、住宅購入の決断があまりにも遅く、回転がないため、急に現在庫が売れて景気が良くなる気配はない。当地区の戸建て分譲の業界は、新聞その他で報道される景況感からかけ離れた最悪の状態、今後もこの状況が続く。

やや悪くなる	商店街（代表者）	・周辺にスーパーが2軒開店する。状況が変わらない中で競争相手が増えることは、パイの奪い合いになるので、先の見通しが立たない。	
	百貨店（営業担当）	・大型ショッピングセンターなどの新規出店で、競合が激化している。	
	衣料品専門店（経営者）	・天候に大きく左右され、6月後半以降悪い状況が続いている。8、9月は残暑が厳しいと予想されているので、どのような商品が売ればよいか分からない。秋物の立ち上がりも悪いことが予想され、苦戦する見込みである。	
	衣料品専門店（次長）	・夏の不振を挽回するため価格を下げざるを得ないが、これといった売れ筋が出ていないため、今後は苦戦が予想される。	
	家電量販店（店長）	・オリンピックのため、デジタル家電の特需が訪れているが、その後は反動が来るのではと心配している。オリンピックに向けて、各社ともデジタル家電等の新商品を販売しているが、よほど工夫、改善をしないと、7～9月の好景気を上回ることはない。	
	乗用車販売店（副店長）	・ボーナスが軒並み減少しており、今後のボーナスの先行きに不安を持っていると客が話している。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・秋の婚礼の予約が全く伸びない。披露宴のスタイルの変化と、競合する式場の出店とで、多様化、分散化が進んでいる。当社は婚礼利用で全体の売上の基礎を固めたいので、婚礼の予約が伸びなければ、現状の景気が良くなると判断できない。	
	タクシー運転手	・毎月50～60台の増車が相変わらず続いており、この先一層悪くなるのではないかと懸念している。	
	通信会社（総務担当）	・アテネオリンピックの需要が8月で一段落するため、秋からは需要が減少する。	
	通信会社（営業担当）	・市場が飽和状態となっており、今後、次世代携帯の取り込みが鍵となるが、それにはまだ若干の時間がかかる。	
悪くなる	一般小売店〔家具〕（経営者）	・今の様子から、3か月後に良くなる見通しが立たない。大企業では業績が良くなっていると報道されているが、現実的には一般消費に回る金が少なく、今後も厳しいと予想される。	
	設計事務所（経営者）	・行政の仕事が減少しているため、民間の仕事にも取り組んでいるが、足元の仕事は減っているため、この先も不安である。	
企業 動向 関連	良くなる		
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・会社の設立が少しずつ増えてきているようである。民間企業のだけでなく、NPOやボランティア団体、ロータリークラブなどが新規に印鑑を作るようになっており、少し余裕が出てきていると思われ、この先はやや良くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・新しい分野の仕事が増加する予定で、設備投資をしている。仕事量が増加すれば、かなり良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現在受注をもらっている商品が、量産されて流れ出すので、今よりも良くなる。
		輸送業（経営者）	・見積も大分増加しており、見積をしきれない状態である。
		金融業（渉外担当）	・現状の物流の動きが定着するのであれば、3か月後にはやや景気は持ち直す。
		不動産業（従業員）	・不動産に資金が流入し始めれば、価格は下げ止まる。景気回復への第一歩となるとみている。
		不動産業（総務担当）	・土地や建物の購入者が増加傾向にある。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・当社においては現在、入居希望テナントの引き合いが結構あるので、この先は空室率の改善が期待できる。
			・デジタル家電景気の影響で、電機機器関連の客先企業の工場稼働率が上昇している。価格競争は厳しいが、当面は良い状態が維持される。
変わらない	化学工業（従業員）	・今後の生産計画に変更の予定はなく、このまま推移する。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・6月に引き続き、事業からの撤退及び倒産が出てきており、今後も厳しい状況は変わらない。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・大手自動車メーカーのリコール問題があったが、ここ1、2か月の状況を見ると、この程度の落ち込みであれば、この先も年末までは何とかかなりそうである。	
	建設業（営業担当）	・資材の高騰や不動産の動きから、景気は良くなっていることが分かるが、受注量が増加してもダンピングやコストダウンによる薄利のため、業績は回復しない。	
	輸送業（財務・経理担当）	・現状の得意先の売上や受注量をみていると、今後の仕事量はあまり見込めない。	

		広告代理店（従業員）	・仕事量はあまり変わらないが、売上減、利益率減とまだまだ厳しい状況が続くそうである。
やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・従来、印刷業はロットが大きい受注で成り立っていたが、大手企業の海外進出に伴い、まとまった仕事も海外に出てしまっている。残った仕事は超ハイテク、超特急、超少ロットのものであり、技術力や設備力が弱い弱小企業には死活問題である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・建築業界では銀行業界のような統合、合併が進んでおらず、この先も少ないパイを取り合う競争が待ち受けている。客も、性能よりも価格重視の購買姿勢は変わらない。
悪くなる		プラスチック製品製造業（経営者）	・プラスチック関係の原材料が値上がりしているため、今後製品価格が上がれば、受注は減少する。
		輸送業（総務担当）	・得意先の仕事に従事している当社の社員の削減が具体的に示され、年度末までに半数近い社員のシフトを考えなければならない。得意先は、縮減の後に外注で発注すると話しているが、そこまで削減されて当社が持ちこたえられるか、非常に苦慮している。
雇用 関連	良くなる	求人情報誌製作会社（企画担当）	・社員、アルバイト、パートともに、全業種で求人が増加している。
		職業安定所（所長）	・7月現在で、来春新規学卒求人が32.8%増加していることから、学卒の就職状況は好転する。
	やや良くなる	人材派遣会社（支店長）	・夏期休暇などがあり、季節的に受注が減る時期であるが、今年は現段階で昨年度の1.5倍程度の受注があり、これからも引き続き期待できる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新卒採用の継続企業が多い。昨年と違い、中堅企業でもまだ継続中である。景気回復を織り込み、来期の採用増への足掛かりとしてPRを続けているのかもしれない。
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・地元大型店の改装オープンが相次いでいるほか、ショッピングセンターのテナントの入れ替えで、有力店の出店が決定するなど、秋以降の地域の活性化が予測される。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は、一般社員が14か月連続、パート社員も7か月連続で前年同月を上回っている。7月は一般社員では介護専門職とコンビニ店長、パート社員では商品出荷検品作業員、レンタカー回送員の大量求人が目立っている。また、平成17年3月の新規学卒者の高卒用求人は、求人数が前年比28.2%、求人数は33.2%と大幅に増加しており、今後もやや良くなる。
		職業安定所（職員）	・6月の有効求人倍率が1.23倍で、前月を0.11ポイント上回っている。地下鉄の開通で、観光客が増加しているためか、卸売、小売、飲食店の求人が順調である。
		職業安定所（職員）	・工業団地の完売、大型小売店等の進出に伴い、雇用者等が増加する。
	変わらない	学校〔専門学校〕（教務担当）	・「多くの会社から内定をもらっている学生が多いようで、内定辞退者が多く予想されることから、積極的に求人と内定を出している」と企業の採用担当者が話している。
		人材派遣会社（社員）	・現状がかなり上向いているため、これ以上の採用増は期待できない。
求人情報誌製作会社（経営者）		・原油価格の高騰や、鋼材の材料価格の高騰により、仕事はあっても取引にならない状況である。製造業や物流は、先行き不透明である。	
職業安定所（職員）		・定年補充のための求人を出すなど、明るさもみられるが、正社員をパートに切り替えているため、パート求人が多く、当面この状況が続く。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業は、コスト削減を行いながら収益改善を実現しているため、継続して人員増を図る様子はない。今、このポジションの人が欲しいという現状補充型の中途採用の動きが目立つ。
やや悪くなる		-	-
悪くなる		-	-